

■編集後記

参院選で、自民党が大敗し、参政党と国民民主党が大幅に議席を伸ばしました。石破首相は、衆院選、都議選、参院選と3連敗しても、すぐに続投を表明して啞然としました。

石破首相は、参院選翌日午後の記者会見で、こう述べたと伝えられています。「この結果を謙虚に真摯(しんし)に受け止めなければならない」。その上で「今最も大切なことは、国政に停滞を招かないということだ」(自民党ホームページ)

結果を真摯に受けとめるなら、なぜ大敗を招いたのか、国民の意思はどこにあったのかを、真剣に分析しなければなりません。それをしないで、「謙虚に真摯に受け止めなければならない」とだけ言うのは、口先だけで誠意がありません。

そして、「国政に停滞を招かない」ために、自分が続投する、というのです。「自分が続投することで、国政をさらに停滞させる」という反省はないようです。

こういう無反省、無誠実、鉄面皮で、国民の声を聴こうともしない石破氏に多くの国民は愛想をつかしているのです。かつての鳩山首相の迷走ぶりに「戦後教育の失敗例」との酷評が立ちましたが、石破氏も同様の失敗例です。やはり政治をよくするためにも、人づくりこそ国家の根本ということを強く感じました。